



副理事長プロフィール ゆきおか・くみこ ●1949年生まれ。1986年より社会医療法人行岡医学研究会副理事長。1988年より学校法人行岡保健衛生学園副理事長。

学校法人プロフィール 1932年設立の大阪接骨学校を皮切りに90年以上の歴史をもつ教育機関。大阪行岡医療大学(医療学部 理学療法学科)のほか、行岡医学技術専門学校(看護第1学科、歯科衛生科)、大阪行岡医療専門学校長柄校(放射線科、臨床検査科、鍼灸科)を運営。所在地は、大学が大阪府茨木市。専門学校が共に大阪市北区。

《 Top Interview 》 — 変革に挑む —

建学の精神「協同」の下、 学校と病院の結びつきを強化。 系列病院での幅広い実習で チーム医療の実際を知る

学校法人行岡保健衛生学園

(大阪行岡医療大学／行岡医学技術専門学校／大阪行岡医療専門学校長柄校)

副理事長

行岡久美子

学

校法人行岡保健衛生学園は90年以上の歴史をもつ医療系の教育機関です。共に梅田駅からのアクセスが良い、行岡医学技術専門学校(看護第1学科、歯科衛生科)および、大阪行岡医療専門学校校長柄校(放射線科、臨床検査科、鍼灸科)に加え、2012年には大阪府茨木市に、大阪行岡医療大学(医療学部 理学療法学科)が開学しました。また、系列の行岡病院も専門学校のそばに位置しています。

本学園の創設者、行岡忠雄博士は「医療は多くの医療技術者との多職

種連携により、初めて成り立つものである」と強調しました。今日というチーム医療の考え方です。以来、本学園では「協同」の二文字を建学の精神として大切にしてきました。学生同士の協

同や、教職員と学生の協同はもちろん、地域と連携した協同学習に加え、学校と病院の結びつきの強さにもその精神は表れています。多くの勤務医が大学や専門学校の教壇に立ちますし、学生は1年次より行岡病院を訪問。実際の臨床現場に触れ、チーム医療を担う専門職としての意識を高めます。

創設者は医師でありつつ柔道整復師として活動し、放射線や臨床検査にも着目。さらにリハビリテーションに対する強い思いがありました。その使命感が、行岡リハビリテーション専門学校を引き継ぐ形で設立した大阪行岡医療大学へと繋がっています。

高校生にとって理学療法士は、部活動で怪我した際、リハビリでお世話になる人という印象があるかもしれません。しかし実際には医療機関だけではなく、介護・福祉施設、在宅訪問ほか働く場所も多様な幅広い仕事です。急性期のほか回復期、慢性期などで患者さんへの対応も違いますが、実習先の医療機関が例えば慢性期中心の受け入れだった場合「思っていた仕事

と違った」と誤解する恐れもあります。そこで行岡病院での実習では、臨床の現場を一通り体験し、全体像を見てもらうことに力を入れています。その分実習時間は長くなりますが、一生の仕事を選ぶのに欠かすことのできないプロセスです。こうした改革を迅速に行うことができるのも、私たち経営陣が学校法人と社会医療法人双方に関わっているからかもしれません。

話を協同に戻せば、一人の力には限界があります。だからこそ人に頼ることも覚えないといけません。教育機関は言うならば、甘えるための場だとさえ思います。しっかりと甘やかし、けれど最終的には自立できるよう促す。ある意味で、子育てと同じではないでしょうか。そう考えると、私の立場から「こんな高校生に来てほしい」と注文をつけるのもどうかという気がしています。親は授かった子がどんな個性であろが喜んで受け入れますよね。それと同じで、多少やんちゃであろが、勉強が少し苦手であろが、ここで学びたいという意志さえあれば歓迎し、さまざまな協同を通じて、患者さんへのサービスを第一に考えられる医療人として送り出す。そうした理想を実現するための環境整備を引き続きしていくつもりです。